

新しい農村政策の構築

～活力の創出に関する政策を中心に～

令和4年11月22日

秋田県 農林水産部 農山村振興課長
(農林水産省より出向中)

佐藤 大祐

目次

1. 自己紹介
2. 国における新しい農村政策の検討状況 ～活力の創出に関する政策を中心に～
3. 農村プロデューサー養成講座
4. 秋田県の農山村振興の新たな展開方向
5. 最後に

1. 自己紹介

2. 国における新しい農村政策の検討状況 ～活力の創出に関する政策を中心に～

3. 農村プロデューサー養成講座

4. 秋田県における農山村振興の新たな展開方向

5. 最後に

自己紹介①

(1) 出生～高校時代 (1984～2003)

- ・長野県須坂市（果樹の町）で高校時代まで過ごす
- ・小学校から始めた卓球に没頭
- ・高校時代は、中山間地域へのジョギングで体力を強化

(2) 大学・大学院時代 (2003～2010)

- ・学部時代は、1日のほとんどを卓球にあてる生活（平日7h、休日10h）
- ・夕張市の財政破綻（2006）というニュースに大きな衝撃。
- ・夏休みの期間を利用して、地元長野県の山奥の集落を巡る

「中山間地域の奥の奥にあるような集落の火を、未来につないでいけるような仕事がしたい。」
という気持ちを決定的に。



ムラが消えるということについて、
考え始めるようになりました。

長野県須坂市



自己紹介③

(3) 農林水産省入省後 (2010~2021)

2010年4月 生産局畜産部食肉鶏卵課

2011年5月 生産局総務課

2012年4月 消費者庁消費者政策課

2014年7月 食料産業局食品製造課 係長

2016年7月 林野庁林政部林政課 係長

2017年7月 国土交通省国土政策局総合計画課 専門調査官

2019年7月 農村振興局農村政策部農村計画課 課長補佐

2021年4月 秋田県農林水産部農林政策課 政策監

2022年4月 秋田県農林水産部農山村振興課 課長
(現職)

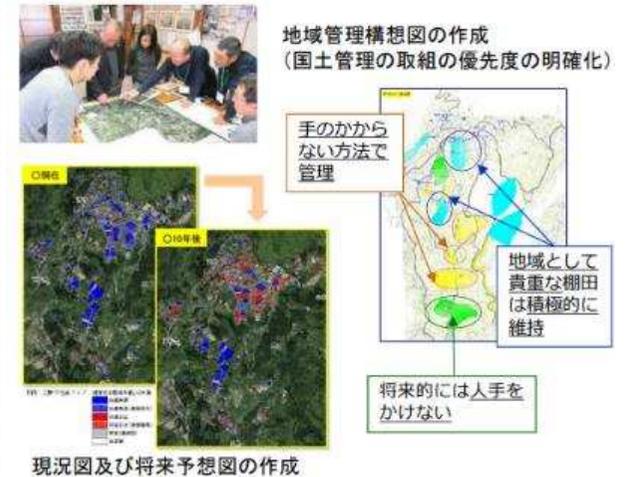
・ 鳴子の米プロジェクトから学んだことを、消費者政策に反映。

地域の活性化や雇用なども含む、人や社会・環境に配慮した消費行動(倫理的消費)や・・・にも関心が高まっている。・・・消費者庁において、倫理的消費等に関する調査研究を実施する。

【消費者基本計画(平成27年3月閣議決定)】

・ 学生時代から足を運び続けていた地元の集落をモデルにケーススタディーを実施。

新しい
農村政策
の構築



1. 自己紹介
2. 国における新しい農村政策の検討状況 ～活力の創出に関する政策を中心に～
3. 農村プロデューサー養成講座
4. 秋田県における農山村振興の新たな展開方向
5. 最後に

はじめに

○ 食料・農業・農村基本計画（令和2年3月閣議決定）では、農村を次の世代に継承していくため、「しごと」「くらし」「活力」の3つを柱とし、**関係府省・地方自治体・事業者**による施策をフル活用し、一体的に講ずる「**地域政策の総合化**」を推進することとした。

しごと



中山間地域での営農の確保



地域資源の磨き上げ



農村×福祉（農福連携）

- 中山間地域等の特性を活かした多様な農業経営の推進
- 地域資源の発掘と他分野との組合せ等を通じた所得と雇用機会の確保 等

くらし



地域のビジョンづくり



地域内交通の確保・維持



配食サービス

- 地域コミュニティ機能の維持や強化
- 多面的機能の発揮の促進
- 生活インフラ等の確保
- 鳥獣被害対策 等

活力



地域運営組織の形成



関係人口の創出



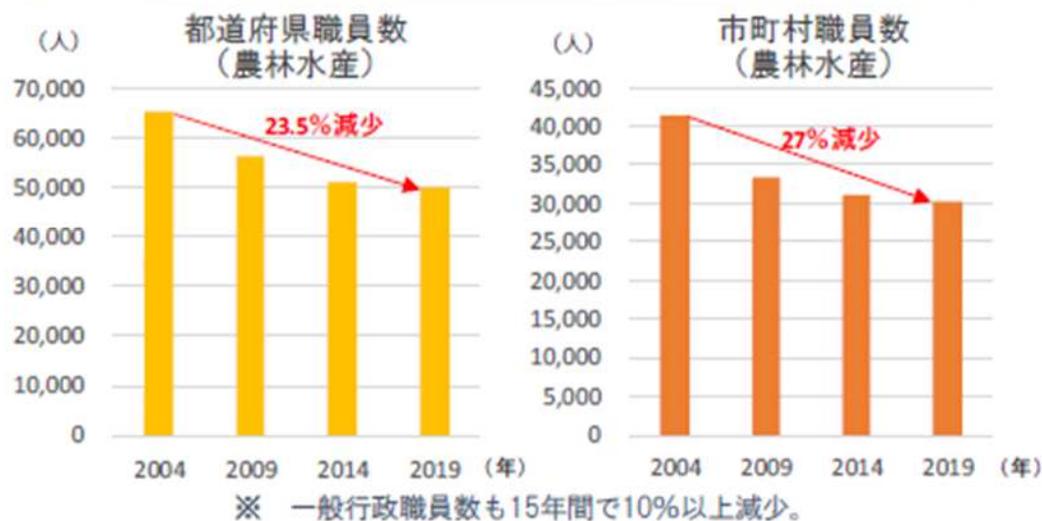
地域内外の若者の雇用

- 地域を持続的に支える体制及び人材づくり
- 関係人口の創出・拡大
- 半農半X等の多様なライフスタイルなどの農村の魅力の発信 等

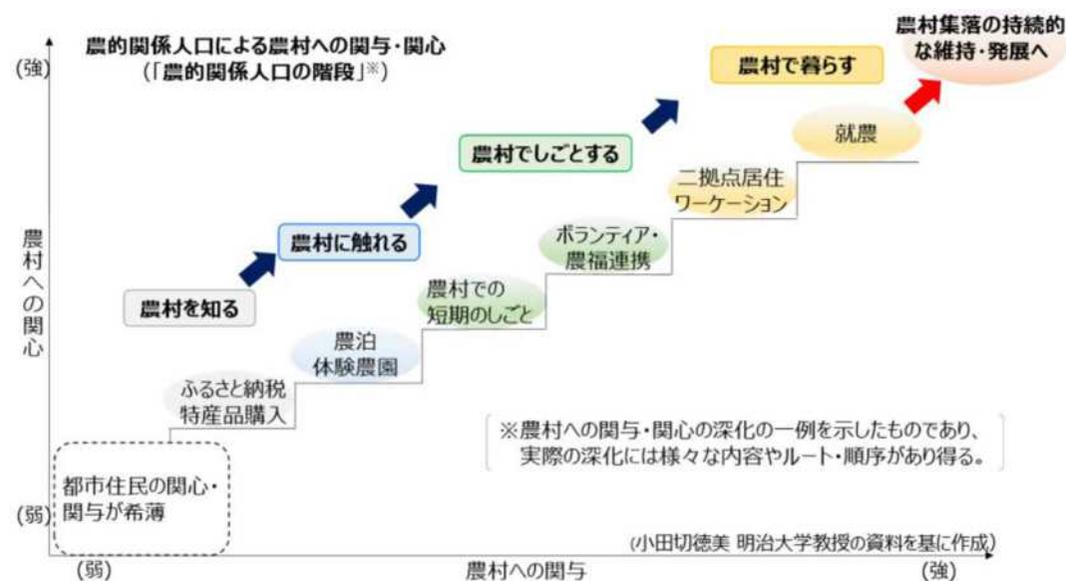
活力づくりの基本的な考え方（農村を支える新たな動きや活力の創出）

- 地域振興施策を使いこなし、新たな動きを生み出すことができる地域とそうでない地域との差、いわゆる「**むら・むら格差**」の課題が顕在化している中で、**地域づくりを担う人材の養成等**を通じ、地域間格差の課題に対処していく必要。
- また、都市住民も含め、**農村地域の支えとなる人材の裾野を拡大していくことが必要**であり、農村地域の関係人口である「**農的關係人口**」の創出・拡大や関係の深化を図っていく必要。

都道府県・市町村の職員が減少する中で、 地域に寄り添う人材の必要性が増大。



(出典) 総務省「地方公共団体定員管理調査結果」から作成。(一部事務管理組合の職員を除いている)



新しい農村政策の在り方に関する検討会での有識者意見の紹介（地域づくり人材の養成（1））

地域づくり人材に求められること

- ・ 地域の宝は何かといったこと以上に、プレーヤーとして誰がいて、どこの仲が悪くて、どの人がリーダーシップあり過ぎて、というところを丁寧に聞く地域診断が重要。
- ・ 地域への動機付けよりも、地域の人が考えていることへの気づきが大切。
- ・ 「この地域すごいな」「役に立ちたいな」など、愛着と共感力を高めていくことが大事。
- ・ やらされ感で活動していると、地域の現場には何も響かない。自らが活動を楽しんでいる人には、周りの人もついてくる。
- ・ プロジェクト全体を総指揮する観点からは、コーディネーターよりもプロデューサーの呼称が適切かもしれない。プロデューサーには、営業力、交渉力、政治力、巻き込み力などが必要。

地域づくり人材はどのような立場の人がふさわしいか

- ・ 現場に入る者は市町村職員という考え方を固定させず、現場には集落支援員が入るなど、人材の役割分担を市町村が判断するステップがあると良いのではないか。
- ・ 集落支援員、地域おこし協力隊、普及指導員など様々なプレイヤーがいるが、これらの役割を整理して組み合わせたモデルを作るのが良いのか、それとも、地域実態に応じてやれる方がやれば良いという発想に立つのかが論点。

新しい農村政策の在り方に関する検討会での有識者意見の紹介（地域づくり人材の養成（2））

価値創造型の地域づくり

- ・ 課題解決型の視点も大事だが、純粹に「楽しいから、やる」という価値創造型で行われている地域の活動が、結果的に地域の課題を解決しているという実情に着目することが大事。
- ・ ワクワクから始めた活動を地域の課題解決に“つなげて”あげる役割を担う人がいると効果的。
- ・ 「地域のため」ではなく、「やりたいことが地域の役にも立つ」という考えを持つことが大事。
- ・ 危機感では人は動かず、不安で固まってしまう。

つながりづくり

- ・ 誰もが参画でき、自然にそこで出会える場を作ることが大事。
- ・ ゆるやかなつながりは、知らない世界に出会うきっかけが生まれやすく、創発とイノベーションが起きやすい。
- ・ この人とこの人を組み合わせると前に進む、ということを考えることが大切。
- ・ 周りのみんなの力を引き出す「のび太」のような存在が大事。

事業との関連付け

- ・ 中山間地域等直接支払、人・農地プランなど、地域の話し合いのプロセスを大事にしている事業が展開されている地域に研修修了者のOJTのフィールドを求めると良いのではないかと。 11

新しい農村政策の在り方に関する検討会での有識者意見の紹介（関係人口）

求められる関係人口

- ・ **関係人口の定義は極めて曖昧**。農的関係人口という言葉は、さらに曖昧性を増すので、せめて農村の関係人口というべき。
- ・ **現場で実施されている施策のほとんどは観光ツアーになっており、交流人口施策と同じ**。関係人口の定義を明示し、施策の目的が明確になってこそ、予算が現場で有効に活用される。
- ・ **今後求められる関係人口は、深い関わり**であり、地域の土地利用、あるいは運営にまで踏み込んでいくような外部者が求められている。

地域と関係人口とのバランス

- ・ **受け入れた側が本当に嬉しいと感じる関係人口**を作っていくことが大事。
- ・ **よその人ばかりでやった活動は、地域の人にとっては不安な部分もある**ので、バランスが大事。
- ・ **外部の人がやってくることを望みつつも地元ではこうである、というブレーキを上手く使う**ことが大事。

1. 自己紹介
2. 国における新しい農村政策の検討状況 ～活力の創出に関する政策を中心に～
3. 農村プロデューサー養成講座
4. 秋田県における農山村振興の新たな展開方向
5. 最後に

農村プロデューサー養成講座（令和3年度～）

- 「入門コース」「実践コース」の2種類のコースで構成。さらに、研修修了生（実践コース）と講師陣をつなぐネットワークを構築。
- オンライン形式（主にライブ配信の講義や演習）も併用し、実例を基にした模擬演習や研修生自らの実践活動による現場力アップを重視。

『農村プロデューサー』養成講座 ～地域に消えない火を灯せ～

1. 研修の目標

・ 農山漁村地域における、創意工夫にあふれる地域づくりの取組内容を学ぶことにより、地域づくりの実践に向けたプロセスを習得。

2. 主な内容

オンライン講義（ライブ配信）

・ 活動内容や成果、動機等を通じ、地域づくりのワクワク感を体感。

『農村プロデューサー』入門コース（定員なし）

・ 地域づくりに造詣の深い者等を講演者（講演者は毎回交代）とした、オンライン上の講義。ライブ講演中にチャットで双方向のやりとりが可能。
・ 月3回、90分程度（全6回）。

3. 受講対象者

・ 地域づくりに関心のある者が幅広く参加可能。
・ 実践コースの受講希望者は、入門コースを受講することが望ましい。

1. 研修の目標

・ 地域への愛着と共感を持ち、地域住民の思いを汲み取りながら、地域の将来像やそこで暮らす人々の希望の実現に向けてサポートできる人材（農村プロデューサー）を養成。

2. 主な内容

(1) オンライン講義（ライブ配信）

・ 地域及び地域住民に関する現状把握や分析手法、実践に向けたロードマップ等の基礎を学ぶ。
・ 地域づくりに造詣の深い者を講師とした、オンライン上の講義。ライブ講演中にチャットで双方向のやりとりが可能。
・ 月4回、90分程度（全4回）。

(2) 対面講義（実例を基にした模擬演習等）

・ 実例を基にした模擬演習等により、(1)で習得した手法を現場で実践するためのトレーニングを実施。研修生同士の連携も推進。
・ 2泊3日、8地方会場で開催。

(3) 研修生自らの実践活動（オンラインゼミ+実践）

・ (2)で学んだ内容を基に、研修生（グループも可）が講師と相談の上活動のテーマを決定し、地元で実践。
・ 農村プロデューサーに求められるポイントを、現場レベルで企画・実践し、その成果を題材として、実施前後のオンラインゼミで解説。

『農村プロデューサー』実践コース（100人程度）

・ 成功につながるポイント、現場が動き出すポイントなどを探り学ぶ。
・ 月1回、90分程度（全2回）。

3. 受講対象者

・ 地方自治体職員*及び地域づくりに意欲がある者等を想定。

* 地方自治体職員として、農林水産、社会教育、福祉、地域共生社会、企業等の他職の職員、地域担当職員、農林水産普及指導員（研修指導）、農事委員、農山漁村活性化推進委員（市町村）等を想定

ネットワークへの参画希望者



令和3年度受講者の声（実践コース）

- 適切な仕掛けを行うことで、ひとの心に「火」をつけることができるという実感を持つことができた。（40代市職員）
- 今回できた人脈（つながり）を大切にし、壁にぶち当たった時に相談したい。（20代市職員）
- やってみたいと思うアイデアがたくさんあり、これから自分がやるんだ！という力をいただいた。（30代地域おこし協力隊）
- 農村プロデューサーとしての目線を持つことは、意識しなければできないことだと感じた。このような研修を受けたことを地域の仲間と共有したい。（30代古民家宿経営、地域づくりNPO）

新しい研修スタイル及び実施スケジュール（予定）

- 実践コースでは、「型にはまった地域づくり」を目指すのではなく、「その地域に合致した地域づくり」を考えるスタイルを目指していく。
- 「オンライン講義」「実例を基にした模擬演習」「研修生自らの実践活動」の3ステップで、個々の研修生の現場力アップをフォロー。

新しい研修スタイル（実践までを段階的にフォロー）



実施スケジュール（予定）

令和4年度の実施スケジュール（予定）は下記のとおり。

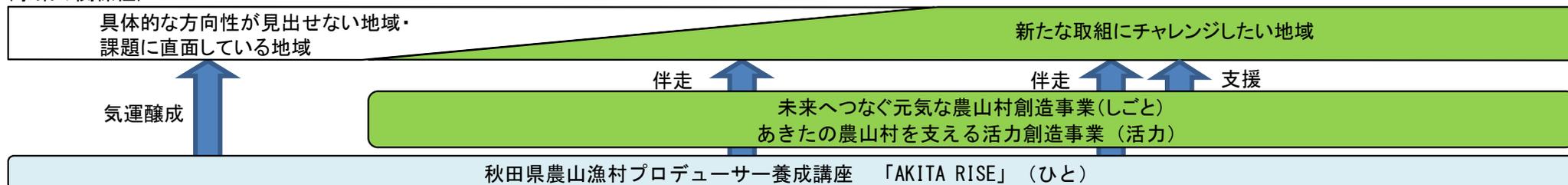
令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
入門コース (オンライン講義)		全6回											・実践コースの募集開始は、5月中旬頃の予定。
実践コース（1） (オンライン講義)				全4回									・実践コース（2）は、8会場（札幌、仙台、さいたま、金沢、名古屋、京都、岡山、熊本）で開催を予定。受講生は申込みの際に参加会場を選択。
実践コース（2） (実例を基にした模擬演習)					3日間の対面講義1回 ※8会場から選択								・オンラインゼミは、実践コース（2）の会場別に実施
実践コース（3） (研修生自らの実践活動)						オンラインゼミ 実践前1回		研修生 地元で実践		オンラインゼミ 実践後1回			・感染症拡大等により、スケジュールが変更となる可能性がある。
研修修了生等の ネットワーク					ネットワーク構築へ								

1. 自己紹介
2. 国における新しい農村政策の検討状況 ～活力の創出に関する政策を中心に～
3. 農村プロデューサー養成講座
4. 秋田県における農山村振興の新たな展開方向
5. 最後に

秋田県の農山村振興施策の全体像(しごと・活力・ひと)

- 農山村の活性化に向けて、新たな取組にチャレンジしたい地域を支援する事業を、「しごと」・「活力」の両面から総合的に展開。
- 併せて、具体的な方向性が見出せない地域や課題に直面している地域も含め、あらゆる地域をカバーした「ひと」づくり（人材育成）により、新たな取組にチャレンジしたい地域の裾野の拡大とステップアップを支援。

(事業の関係性)



■未来へつなぐ元気な農山村創造事業(しごと)

協議会設立

- ・農林漁業者・小売業者・観光業者・加工飲食業者・関係人口 など

元気な農山村創造プラン策定事業

- ・地域資源を活用した「しごと」を軸とした総合的な地域づくりに関する将来ビジョンを策定
- ※ 秋田県農山漁村プロデューサー養成講座「AKITA RISE」(入門編・実践編)の受講を必須とする

農山村発新ビジネス創出事業

- ・キラリと光る地域特産物の創出
- ・「地域資源」×「他分野」の組み合わせによる新ビジネスの創出

→さらに、しごとや活力の創出に向けた県・国の様々な事業を紹介し、総合的な地域づくりを後押し

■あきたの農山村を支える活力創造事業(活力)

あきた田園ライフ推進事業

- ・多様なライフスタイルの推進等を通じた関係人口の拡大と深化
- 「半農半X」など新たな兼業スタイルの促進
- 農泊ビジネスへの起業支援

魅力ある秋田の里づくり推進事業

- ・地域資源を生かした地域交流活動の推進
- 食や伝統文化、棚田などの地域資源を生かした交流活動
- 里地里山の魅力・情報発信、プロモーションの実施

■秋田県農山漁村プロデューサー養成講座「AKITA RISE」(ひと)

入門編(3回)

- ・地域づくりのワクワク感を醸成しつつ、実践に向けたプロセスも習得。
- 対象：・具体的な方向性が見出せていない者も含め、地域づくりに意欲のある者(学生含む)
- ・農山村の地域活動に参画したいと考えている者 等

実践編(7回)

- ・課題や悩みに寄り添いながら、農山漁村の資源を生かした新たなプロジェクトに伴走支援。
- ・参加者の中から、県内他地域に助言するサポート人材を発掘し養成。
- 対象：・取組にチャレンジ中の地域の者 ・チャレンジに向けて踏み出したい地域の者 等

【目指す姿】



未来へつなぐ元気な農山村創造事業

中山間地域等※において、多様な人材の参画のもとで地域資源を生かした地域活性化を目指すプランづくりから、地域特産物のブランド化や地域資源と観光等の他分野との組み合わせによる新ビジネスの創出までを総合的に支援。

※中山間地域のほか、「守りたい秋田の里地里山50」認定地域を含む地域、中山間地域等直接支払交付金実施地域を含む地域も対象

STEP0: 協議会設立

- ・農林漁業者に加え、多様な人材（小売業者、観光業者、加工・飲食業者、関係人口など）が参画
- ・次世代への継承など取組の持続性も含め、必要な人材が参画

(参考) 地域づくり活動支援事業

(補助率 定額 ※上限300千円(1年目)、100千円(2年目))

- ・農地等を活用した交流活動等を通じて、地域の活性化を図る取組を支援
- ・未来へつなぐ元気な農山村創造事業の実施に向けたトライアルとしても活用が可能

STEP1: 元気な農山村創造プラン策定事業 (補助率 1/2 (+市町村協調助成1/2) ※上限300千円、1年間)

- ・地域資源を活用した「しごと」を軸とした総合的な地域づくりに関する将来ビジョンを策定
- ・策定に当たり、地域内で活動する協議会構成員が秋田県農山漁村プロデューサー養成講座「AKITA RISE」(入門編・実践編)を受講

【主な記載事項】

- ()年後のビジョン
- 取組による効果(「しごと」「活力」の両面から記載)
- 将来ビジョンの達成に向けた具体的な取組
- ビジネスの取組目標(取組の内容ごとに複数設定可)

STEP2: 農山村発新ビジネス創出事業 (補助率 1/2 (+市町村協調助成1/2) ※上限2,500千円、2年間)

- ・元気な農山村創造プランに基づく、新たなビジネスの創出に必要な取組を支援
- ・同プランで設定されたビジネスの取組目標ごとに、1つの事業を実施可能

【支援対象となるビジネスの範囲】

① 地域特産物のブランド化

農林水産物等について、単なる系統・市場出荷等ではなく、2次・3次産業との連携を図るなどして、再生産可能な価格での販路を確保する取組

② 新ビジネス

農地、森林、景観、文化、歴史などの地域にある地域資源と観光や飲食等の他分野との組み合わせによる六次産業化に限らないビジネス

【支援対象となる取組内容】

- (1) 地域特産物の生産、加工及び商品化に必要な施設・機械等の整備
- (2) 新規導入作物の試験栽培や新商品の試作・開発
- (3) 新ビジネスに必要な施設・機械等の整備
- (4) マーケティング活動や販売促進活動
- (5) その他、地域特産物のブランド化や新ビジネスの創出に必要な取組

→さらに、しごとや活力の創出に向けた県・国の様々な事業を紹介し、総合的な地域づくりを後押し

※例えば、元気な農山村創造プランを策定していく中で、農用地の保全や生活支援にも取り組んでいく構想がある地域には、農村型地域運営組織(農村RMO)形成推進事業(農林水産省)を紹介

八峰町で実施した「半農半X」体験事業の紹介

- **①地域の農林漁業（半農）に従事**しながら、
②現在の自分の仕事（半X）を（リモートワークなどにより）持ち込んで継続する、
という**①と②を組み合わせた「多業」スタイルを体験**する試行的取組を2021年に実施。
- 八峰町観光協会が、**地域の農林漁業者と体験参加者をマッチング**する役割を担った。

【半農半X】秋田県八峰町で副業してみませんか？

- 新しい兼業スタイル「半農半X」の体験モニターです。
- 八峰町に滞在し、自分の仕事「本業」を続けながら、農林漁業等「副業」に取り組みます。
- 滞在期間は概ね二週間。モニター参加者に取り組み状況を情報発信して頂きます。

体験参加者が実践した
地域の農林漁業

- ・ネギ加工調整
 - ・シイタケ収穫・選別
 - ・ハタハタ選別
 - ・薪割り(杉手入れ)
- 等



体験参加者の仕事

- ・エンジニア
 - ・デザイナー
 - ・カメラマン
 - ・動画制作
 - ・アーティスト
- 等

「半農半X」体験事業を創設した時の問題意識

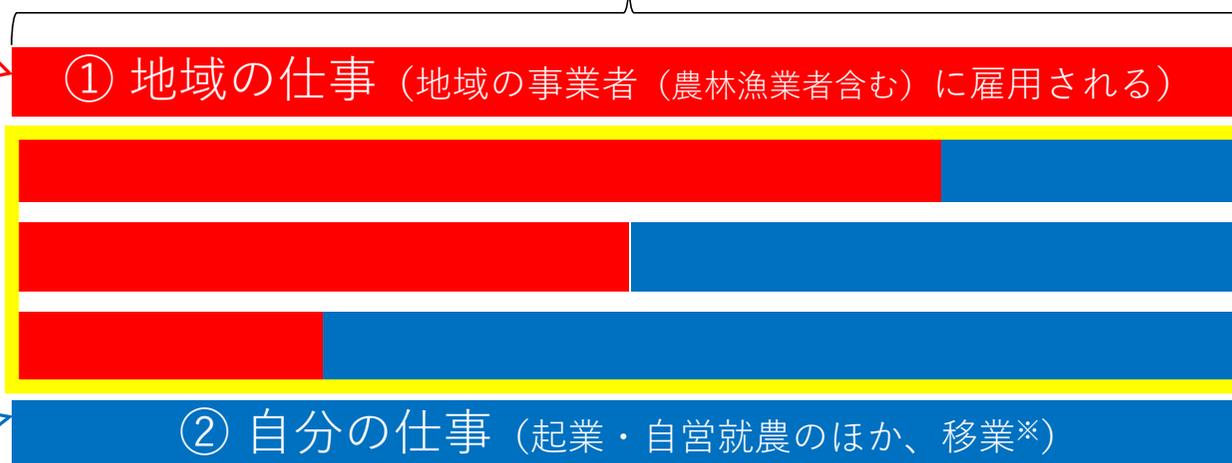
- 地域で所得を得る手段は、「① 地域の仕事」、「② 自分の仕事」の2つ。
- 「半農半X」体験事業では、①と②を組み合わせることで両者の弱点を補完したライフスタイルを体験。

〈弱点〉

「地域の仕事」
だけで十分な所得を得るハードルは・・・
農山漁村 > 都市

「自分の仕事」
だけで十分な所得を得るハードルは高い

十分な所得



〈弱点の補完〉

農山漁村にも通年雇用以外の「地域の仕事」は多様に存在

「地域の仕事」の所得を組み合わせられれば、「自分の仕事」のハードルは低下

移業とは

明治大学小田切徳美教授によれば、既存の仕事を外部から移す形態を「移業」と呼んでいる。

今後、リモートワークの普及により、一般の会社員も含め、「移業」のハードルはさらに低下していく可能性。

「半農半X」体験事業による効果

「しごと」の視点の効果

- 「地域の資源・課題 × 多様な体験参加者のスキル」の様々な組合せにより、**新たなイノベーションが起きる**
- 農林漁業者の**繁忙期の労働力の確保**につながる
- 地域の農林漁業からも一定の収入を得ることで、リモートワーク以外の仕事を含め**新たな自分の仕事に挑戦しやすくなる**
(「半X」だけで十分な所得が得られている参加者がほとんどであったため、この効果はあまり検証できていない)

「くらし」の視点の効果

- 活動を通じて**地域内の関係者の横のつながり**が深まり、今後地域で新たな活動を行うときの基盤になる

「活力」の視点の効果

- 短期の体験者から定住者に至るまで段階的に仕組みを活用可能で、**関係人口の創出や、移住者の増加**につながる
- マッチング組織（八峰町観光協会）、農林漁業者、滞在先の宿など、多くの地域住民と関わるができるため、**体験参加者が地域のことを多面的に知ることができる**

【新たなイノベーション】



- ・デザイナーのスキルを活かし**パッケージをデザイン**
- ・体験者と地域側の双方にスポットを当てた**インタビュー動画**を制作

にかほ市で「半農半X」の新たな取組を開始

PressWalker

無料のプレスリリース
配信サービス

Q キーワードから探す

農林漁業の課題解決に向けた「半農半X」の法人向けモニター調査を、 秋田県にかほ市で実施！

一般社団法人ロンド

© 2022.09.21 10:00

観光・レジャー

広告・宣伝

自治体など



～地域課題と向き合いながら地域交流ができるプログラム～

一般社団法人ロンド（代表理事：金子 晃輝）は、2022年9月27日より、企業を対象として地域における農林漁業の課題解決に向けた取り組みである「半農半X」のモニター調査をにかほ市にて実施いたします。（期間は9月27日～9月29日、及び10月に約2週間の予定）※本事業は秋田県からの委託を受けて行うものです



■にかほ市で「農林漁業体験を通じて、地域課題と向き合いながら地域交流ができるプログラム」を実施します！

今回、秋田県では県南に位置するにかほ市にて「半農半X」のモニター調査を行います。

「地域課題の解決に向き合いながら行う農林漁業」をコンセプトに、地方創生や地域活性化事業、新規事業開発による社会貢献などに力を入れており、副業OKの新しい働き方を推奨または導入を検討したい企業の社員に本プログラムを提供します。

本プログラムでは、まずはワークショップを行い、参加者にかほ市が抱えている地域課題を伝えます。その後、参加者に受け入れ農林漁業者のもとで一次産業に取り組んでいただき、地域活性化に向けて取り組んでいるプレイヤーとの交流の機会を設けながら、現場目線で課題を捉えた上で解決策を考えていただきます。

プログラムの最終日には、プレゼンテーションの機会を設け、プログラム期間で考えていただいた地域課題の解決策等を発表する地域交流会を実施します。受入農林漁業者や体験参加者だけでなく、受入地域全体と企業の発展を見据えたプログラムになることを目指します。

■ご協力いただくにかほ市の地域事業者3組

体験参加者の受け入れにあたり、地域外部の方の受け入れ実績を持つ下記3組の地域事業者にご協力いただけます。

- 株式会社権右衛門 須田 貴志 氏（米/ネギ農家）にかほ市認定農業法人。令和3年から農業インターンシップを実施。今年も県外の学生1名を受入れ中。また、神奈川県から移住し、就農を目指す60代の男性をアルバイトで雇用しながら、就農に向けてサポートしています。
Webサイト：<https://r.goope.jp/gonuemon5050>
- 佐藤勲六商店 佐藤 玲 氏（いちじく農家）地域内外に仲間を募りいちじく栽培を行う「サンソープロジェクト」を立ち上げ、いちじく文化を未来に繋げていく取り組みを実施。
Webサイト：<https://ichijiku-ya.com/>
- 齋藤農園 齋藤 大樹 氏（花卉農家）園芸メカ団地組合員。フロンティア「地域で学べ！農業技術研修」の受け入れを1年間実施。

秋田県農山漁村プロデューサー養成講座「AKITA RISE」

秋田県農山漁村プロデューサー養成講座

AKITA RISE

AKITA RISEに込める思い

農山漁村の活性化に向けて、より多くの人々がワクワク感を持って動き出す。ここで出会った人たちが、ワンチームとなってお互いのプロジェクトを高め合う。そんな秋田の未来を創りたいという思いから、本講座を創設しました。

入門編・第1回講座

9月15日(木)

【時間】13:30~16:30 【参加費】無料

申込締切 9月13日(火)12時

秋田市会場

秋田県ゆとり生活創造センター遊学会
〒010-1403 秋田市上北手瓦巻字野切24-2

東北(能代市)会場

能代山本広域交流センター
〒016-0876 秋田県能代市字湯原3-2

県南(美郷町)会場

美郷町中央ふれあい館
〒019-1402 秋田県北都美郷町野中下村37-1

※案内状ではない等の中心を有しない理由がある場合、オンライン配信の視聴も可【詳細は要相談】

秋田県農山漁村プロデューサー養成講座詳細

入門編

地域づくりのワクワク感を醸成しつつ、実践に向けたプロセスも習得。

内容

● 具体的な方向性が見いだせていない者も含め、地域づくりに意欲のある者(学生含む)

● 農山村の地域活動に参加したいと考えている者

実践編

課題や悩みを寄り添いながら、農山漁村の資源を生かした新たなプロジェクトに伴走支援。

● 取組にチャレンジ中の者

● チャレンジに向けて踏み出したい地域の者 等

カリキュラム

開催	日程	講座テーマ
第1回	2022年9/15(木)	<ul style="list-style-type: none"> ● 基調講演 農村の超絶まちづくり～価値創造型の農村イノベーション～ BBT大学 経営学部グローバル経営学科 学科長・教授 / BBT大学大学院MBA 教授 INSPIRE 代表理事 谷中 修吾 氏 ● パネルディスカッション (株)ひの産 代表取締役 佐藤 潤輔 氏 NPO法人八幡町観光協会 坂谷 大樹 氏
第2回	2022年12/2(金)	<ul style="list-style-type: none"> ● 基調講演 自ら動き出したくなる地域づくり 農村観光大型プランナー 高橋 保博 氏 ● パネルディスカッション 出演者は県内取組事例から講師中
第3回	2023年2/21(火)	<ul style="list-style-type: none"> ● 基調講演 未来志向の地域づくり 明治大学農学部教授 小田切 徳美 氏 地域に呼び込む若者達の思い Rural Labo 代表 小菅 典太郎 氏 ● 実践編受講者発表会 ※実践編第7回と合同開催

開催	日程	講座テーマ
第1回	2022年10/4(火)	● 地域の魅力を活かしたビジネスを作る 事業家の考え方を学ぶ 地域の魅力×思い強く未来×地域課題から事業を再構築する
第2回	2022年10月	● ビジネスモデルの整理 地域ビジネスづくりのためのマーケティング理論を学ぶ
第3回	2022年11月	● 先進事例から機想を具体化する 他県の地域活性ビジネスの事例を知り、自身のビジネスモデルに不足している要素を確認する
第4回	2022年12月	● 事業機想案のブラッシュアップ 実現するためのステップを設計する
第5回	2022年12月	● 持続可能なビジネスの機想 ビジネスモデルの収益性、資金調達を検討する
第6回	2023年2月	● 事業機想・計画のブラッシュアップ 機想を持続的な事業にしているための計画を立てる
第7回	2023年3月	● 事業機想の発表 地域ビジネスの事業機想を発表 ※入門編第3回と合同開催

【基調講演】

農村の超絶まちづくり
～価値創造型の農村イノベーション～

BBT大学 経営学部グローバル経営学科 学科長・教授 / BBT大学大学院MBA 教授 INSPIRE 代表理事 谷中 修吾 氏

【パネルディスカッション】

県内の取り組み事例を掘り下げる

- 新ビジネス機想中の地域 にかほ市若狭台 株式会社ひの産 代表取締役 佐藤 潤輔 氏
- 半農半実地地域 NPO法人八幡町観光協会 坂谷 大樹 氏

【交流会】 講座終了後 16:45~17:45(予定) 講座終了後に参加者同士や講師との交流・意見交換(任意参加)

【交流会の概要】

- ・4人程度で班を編制し、自己紹介・講座内容の振り返り
- ・講師への質疑応答や意見交換

⇒交流会への参加を重ねるごとに、新たな繋がりや発見が生まれる！

⇒県職員にとっても、現場の意欲あるプレイヤーと繋がるきっかけに！

講座開催日
に際しては
お問い合わせもお願いし
ます。

1. 自己紹介
2. 国における新しい農村政策の検討状況 ～活力の創出に関する政策を中心に～
3. 農村プロデューサー養成講座
4. 秋田県における農山村振興の新たな展開方向
5. 最後に

秋田県の現場に来て感じたこと

- ・ 市町村職員は、現場で新たな取組にチャレンジ中（あるいは構想中）のプレイヤーを意外と知らない（ただし、企画部局や商工部局などに相談すると農林漁業関係のプレイヤーの情報がある場合も）
- ・ プレイヤー同士がオール秋田で繋がりあっていることが多く、この繋がりをたどっていくことで、芋づる式に無数のプレイヤーと出会うことができる
- ・ こうしたプレイヤーは、たくさんの「関係人口」を地域に呼び込んでいることも多い一方で、地域内で浮いてしまっていることもある
- ・ 「関係人口」と一括りで言っても、その関わり先は、特定の個人、特定のグループ、地域の様々な人たち、のようにグラデーションがある
（プレイヤーが地域内で浮いているケースでは、「関係人口」の関わり先も狭い場合が多い可能性）
- ・ 「関係人口」の関わり先の裾野が拡大していくような役割を果たす「人材」や「場」を創出していくことで、新たな取組が次々と生まれやすくなる好循環が起きていくことに加え、プレイヤーと地域がかき混ぜるきっかけにもなるのではないか
（印象的だった半農半X体験者の言葉 「八峰町に行く理由がいくつもできた」）

今後やっていきたいこと

- ・ 地域の話し合いの場や、「AKITA RISE」の参加者の取組の現場に出向き、秋田県の農山村振興施策を積極的に周知するとともに、現場とのネットワークを深めていくこと。

(地域の話し合いの場のイメージ)

- ・ 中山間地域等直接支払の集落戦略
- ・ 地域計画（人・農地プランの法定化）
- ・ ほ場整備の調査計画

- ・ 「AKITA RISE」の参加者のうち、自己の経験や得意分野を活かして地域外の取組にも貢献していき
たい方に「AKITA RISEサポーター（仮称）」として活躍していただくこと。

(「AKITA RISEサポーター（仮称）」の活動内容のイメージ)

- ・ 県が行う現場での意見交換への同行
- ・ 他地域からの現場視察依頼の積極的受け入れ
- ・ 日本型直接支払の事務受託など、地域活動のサポート